放課後の児童生徒の居場所事業

自治体名

岩手県北上市

学校数

小学校17校　中学校9校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

〇応急仮設住宅入居者（民間借上 115 世帯 239 人、雇用促進住宅 62 世帯 138 人）
〇その他の住宅等入居者（親類・知人宅 25 世帯 49 人、アパート・自宅 61 世帯 150 人、介護施設等 8 世帯 8 人）
合計約 271 世帯 584 名　※2月1日現在

＜取組名＞　北上市　放課後子ども教室推進事業

取組概要

実施形態（該当に〇）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	〇			

実施主体・場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数（回数）	活動場所
	3	724	181	各小学校、各交流センター

活動内容

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
			〇		（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
		〇	〇		（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
	〇				（　　）

＜取組の内容を具体的に記載＞

【黒沢尻西小学校区（はばたき子ども広場）】

はばたき子ども広場は、毎週月曜日と水曜日、土曜日（月に1～2回）の週3回の活動を基本として開催している。

月曜日と水曜日は黒沢尻西小学校の余裕教室やアッセンブリホールを活動場所として、1・2年生を対象とした放課後の交流活動を実施している。子どもたちは最初に宿題を済ませ、その後に自由遊びやレクリエーション、ニュースポーツ等の遊び・交流活動を中心に行っている。土曜日は、黒沢尻西地区交流センターを拠点に全学年を対象とした様々な体験学習を行っている。七夕・クリスマスなど四季の行事の実施や親子料理教室・農業体験等を行った。

はばたき子ども広場の運営にあたっては、黒沢尻西小学校区内の老人クラブやゲートボール協会、レクリエーション協会など様々な組織・団体との連携を積極的に図っている。この組織・団体から個人ボランティアが結集し、安全管理員や学習アドバイザーとして協力し、地域ぐるみで事業を運営する形態となっている。そして、このことが子どもと大人の交流や子どもの居場所づくりを通した地域づくりへとつながることができた。その一例として、平日の活動で地域のお年寄りが子どもたちに謡曲を教え、その練習の成果を市民芸術祭で発表したことがある。はばたき子ども広場は、地域の伝統文化を大切にする場にもなっている。

（最近の活動）

自由遊び、宿題、朗読、サッカー、グラウンドゴルフ、工作、陶芸、料理教室、レクリエーション、謡曲、農業体験、消防体験

（主な学習アドバイザー・安全管理員）

黒沢尻西地区民生児童委員協議会、北上市老人クラブ連合会黒西支部、黒沢尻西地区食生活改善推進協議会、黒沢尻西地区青少年健全育成会、黒沢尻西地区ボランティア協議会、黒沢尻西地区体育協会、消防団1分団第2部、グラウンドゴルフ協会、NPO法人フォルダ、北上市少年少女発明クラブ、北陶会、一般公募ボランティア

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

・　震災により、本市は人的被害こそ少なかったが、公共施設が被災し、安全に対する備えが更に必要な状況である。
・　震災後、雇用促進住宅等を応急仮設住宅に充て、行政やNPO等による支援活動が活発化するなど、住民異動や様々な人々の動きが見られ、新たなコミュニティ作りや既存コミュニティの強化が必要である。

◇住民等からの要望・必要な取組

・地域の大人が見守る中で、子どもたちが自由に遊び、読書、勉強等のできる居場所を確保してほしい。
・地域の専門的な技能をもつ大人の協力を得て、子どもたちに様々な遊び・交流・体験のプログラムを提供したい。
・地域ぐるみで事業を運営することにより、「地域の子どもは地域で見守る」意識を広め、子どもの居場所づくりを通した地域づくりへとつなげていきたい。
・地域全体で放課後等における子どもたちの安全を守り、健やかに育む環境づくりを進めることを目的に放課後子ども教室を実施する。

体制づくり・取組の実施

◇　協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

【教育委員会生涯学習文化課】 実施主体、企画運営、コーディネーター・ボランティア選定、申請書類作成
【教育委員会児童家庭課】 情報提供、意見交換
【小学校】 児童参加の呼びかけ、児童生徒への指導、実施日の調整・連絡
【自治組織・交流センター（旧公民館）】
　事業周知、課題の掘り起こし、運営協力、指導助言、コーディネーター・ボランティア紹介等情報提供
【地域ボランティアグループ】 学習アドバイザー及び安全管理員を担当、読み聞かせプログラムの企画

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・　平日の放課後は宿題とレクレーション・ニュースポーツ等の交流活動、土曜日は隣接する地区交流センターを会場に、料理教室・農業体験・四季の行事などの体験活動を、年間を通して計画し、多彩に実施した。
・　地域の財産や学習アドバイザーの得意分野を生かしたプログラムを実施し、子どもから大人までの生涯学習、地域づくりにもつながるよう工夫した。
・　「はばたき通信」を発行し、広場の様子を保護者に紹介し、協力を募る活動を行った。
・　交流センター社会教育指導員がプログラム提供及びコーディネーターの支援を行い、地域ぐるみの活動となるよう配慮した。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

・既存の組織や団体の中から、個人ボランティアが結集し、地域ぐるみで事業を運営していく体制ができた。
・「地域の子どもは地域に住む大人みんなで育てる」という意識を育むことができた。
・子どもと大人の交流や子どもの居場所づくりを通した「地域コミュニティづくり」へとつながってきた。
・謡曲を学び、市民芸術祭で発表するなど、伝統文化を伝える場となった。
・地域の方から畑を無料で借用することができ、栽培を通して収穫の喜びを体験することができた。
・機関紙（はばたきだより）を通して、活動の様子や児童の声などを入れながら情報提供したことにより、保護者の理解が得られ、参加者が多くなった。
・学年や地区の異なる友達と遊ぶことができ、子どもたちが自分たちで遊びを考えて遊ぶようになった。

◇課題や今後の展望

【課題】
・ボランティアの十分な人数確保が難しい。
・コーディネーターの指示がないと活動がスムーズに運ばないこともあり、コーディネーターが毎回参加しなければならず、負担となっている。

【今後の展望】
・地域で独自の運営委員会を開催し、25 年度以降も継続してやりたいという地域の意識がある。
・将来的には補助事業ではなく、地域独自で運営していく体制が望ましい。そのためには、これまでのノウハウを生かしながら、地域の青少年育成事業等で子どもの居場所づくりに引き続き取り組んでいくことが考えられる。